

平成29年度 大田区立西六郷小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

六郷の住宅街に位置し、地域とのかかわりを大切にした教育を行っている。学校支援地域本部（スクールサポートにしろく）の働きにより、「昔遊び体験」（1年）、「多摩川ウォッチング」（3年）、「福祉体験」（4年）「日本の伝統文化を学ぶ」（6年）、「戦争体験に学ぶ」（6年）学習など、各学年でゲストティーチャーを招いて地域に根ざした学習を行っている。児童一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させるために学習規律を整えるとともに、ICTを活用するなどわかりやすい授業の実現をめざし、校内研究を通し学校全体で日常的な授業改善に力を入れている。また、西六郷小学校少年合唱団の発足の地であり、現在も西六郷小学校合唱部と西六郷少年少女合唱団として活動を続け、歌声の響く学校として地域からも愛されている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者
						コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:算数のワークテストで80%以上正答している児童が全体の90%以上である。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では今までもICT機器を活用して児童にとって「分かる授業」の展開に取り組んできた。今年度区より全普通教室にICT機器が整備され、さらに効果的な活用ができ、児童の基礎・基本の定着につながっていると感じる。しかしながら現状に甘んじることなく、学習に苦手意識をもっている児童に対して個に応じた指導を今後も充実させていく必要がある。また、学習指導講師を活用した放課後・土曜補習教室の計画的な実施により、よりきめ細かい指導、個に応じた指導、そして学習に取り組む習慣づけなどを実践し、全児童の学力向上につなげていきたいと考えている。</li> <li>・学習規律を学校全体で統一する指導を行ったことで多くの児童が集中して学習に取り組んでいる。今後も引き続き学習規律を維持し、また家庭学習の定着を図るための保護者への呼びかけを行い、さらに基礎・基本の確実な定着につなげていくと同時に主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年より学力向上が見られるので、今後もステップアップしてより一層向上することを願います。</li> <li>・ICT機器を積極的に取り入れた授業など、先生方が前向きに指導している様子が素晴らしい。</li> <li>・子どもたちは授業中、とても生き生きといてクラスの雰囲気も良い。</li> <li>・先生方の努力で児童の学力は徐々に向上していると思う。さらなる向上には家庭学習が重要なので、保護者と協力して定着を目指してほしい。</li> <li>・先日タブレットが学習障害のある児童に対してより良い結果が出ていると言っていたのでさらに進めてもらいたい。</li> <li>・先生方も大変だと思いが、学習の苦手な子に対して個に応じた指導を行っていただきたい。よろしくお願います。</li> <li>・目標に対する継続的な取り組みが成果として数値に表れていると思う。</li> </ul>
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:算数のワークテストで80%以上正答している児童が全体の80%以上である。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:算数のワークテストで80%以上正答している児童が全体の60%以上である。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:算数のワークテストで80%以上正答している児童が全体の60%以下である。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。				
		「学習スタンダード」を中心に全校で統一した学習規律を徹底し、集中して学べる環境を整える。				
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:児童へのアンケートで、「友だちが困っていたら助ける」と回答している児童の割合が90%以上。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートでは「友だちは大切だと思う」が99%、「友だちが困っていたら助けてあげようと思う」が98%と肯定的な回答を得ることができている。日常的に読書活動の時間を確保したり、道徳の学習を児童の実態に合わせ展開したりと豊かな心の育成に力を入れている成果と考える。また、児童間のトラブルが発生、もしくは発生すると予想されるときには校内において組織的に対応する「いじめ防止委員会」を開いて様々な角度から対応策を講じ、よい方向に向かわせることができている。今後も引き続き児童の心に寄り添った指導を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットによる「いじめ」が世間ではあるようなので、今後の学校としてどのようにかかわるかを検討していただきたい。</li> <li>・一人一人がとてものびのびとしている。また、連帯感を必要とするときの集中力が素晴らしい。</li> <li>・地域のサポートもあり、西六小は様々な取り組みを率先して行っている。</li> <li>・西六小の児童は、優しい子が多いと思う。現状の取り組みをぜひ継続してほしい。</li> <li>・いじめは早期発見が大切。いじめられる側よりいじめられる側の方が聞が深いと私は思います。難しく、デリケートな問題ですのでより指導が難しいとは思いますが、よろしくお願います。</li> <li>・児童アンケートでは「友だちは大切と思う」が99%など、とてもよい数字だと思います。いじめのない学校を作っていただきたいです。そのためには地域も協力させていただきますので何なりとお申し出ください。</li> </ul>
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 同 80%以上。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 同 60%以上。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 同 60%未満。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
		自分から挨拶する姿勢を身に付ける。挨拶を通して人との関わりを深めるとともに、豊かな心を育む。				

体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4: 保護者アンケートで「学校は健康なからだ体力向上に向けての取り組みを行っている」と回答した割合が90パーセント以上	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一校一取組運動や計画的に実施している体育朝会、持久走週間など、児童の体力の向上に日々努めている。新体力テストの結果、区の傾向として持久力と投力が都の平均値を下回っているため本校でも児童の実態を把握し、それに合った体力向上の取り組み、指導を行っていく。</li> <li>・児童の生活習慣の見直しを図るための「早寝・早起き・朝ごはん強化週間」を意図的に設け、その結果をもとに個人面談や三者面談等において保護者との話し合いの場を設けている。学校と家庭とで共通した課題意識をもち、連携してよりよい生活習慣を送らせることが重要である。今後も引き続き保護者との連携を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上のモチベーションはあったと思いますが、一人一人の児童においては今一つの意欲に欠けているのかなと思います。</li> <li>・展示会での作品を見て、指導力のすごさに改めて感謝いたします。</li> <li>・体力の向上には日々の積み重ねが大切なので、長期的な取り組みをお願いしたい。</li> <li>・昔と違い、地域に遊び場が減っていることもあり、今はあまり外で遊ぶことが少なくなっている。塾通い、室内でのゲーム遊び等、今の時代なのでしょうか。外で遊ぶことが少なくなっていることで子どもたちの体力が落ちている昨今、先生方のご苦勞に感謝。</li> </ul>
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3: 同 80%以上。			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2: 同 60%以上。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1: 同 60%未満。			
		オリンピック・パラリンピック教育を推進し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 保護者アンケートで「先生は、わかりやすい授業に努めている。」と回答した割合が90パーセント以上	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開時の保護者アンケート、年度末の保護者アンケートの結果を全教員で共有し、授業改善に役立てている。また、前述の通り、ICT機器の効果的な活用により児童にとって分かる授業をめざしている。今後はさらに、他校の研究実践や教員の専門性の伝達などによりさらに教員の指導力向上に努めていく。</li> <li>・原則毎週1回実施している特別支援校内委員会では、配慮が必要な児童への対応について組織的に話し合いを行っている。特別支援コーディネーターやスクールカウンセラー、特別支援教室巡回教員との話し合いを通じてより効果的な児童への指導方法を考え実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境はかなり整ってきていると思う。更なる向上を目指してほしい。</li> <li>・PTAアンケートの「先生はわかりやすい授業に努めている」との設問に対する評価を見て、先生方のご努力・ご尽力に敬意を払います。</li> <li>・伝統文化の継承と学び、それを外国人に伝える授業は素晴らしいと思います。</li> </ul>
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 同 80%以上。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 同 60%以上。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。				
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。				
「日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成事業」を活用し、日本の良さを再認識するとともに、外国人と関わり、発信する場を充実させる。						
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 保護者アンケートで「PTA活動や学校支援地域本部など、学校・家庭・地域が相互に連携し、子どもの育ちを支えるしくみがあることを知っている」と回答した割合が90パーセント以上	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の定着には家庭学習も必要である。年度初めの保護者会や学年だより等で各家庭に啓発している。しかし、家庭ごとにその取り組み方に違いがあるのが現状である。今後も引き続き学校と家庭とが連携し、それぞれの取り組みの重要性を理解してもらい、互いに協力しながら児童指導を行っていく。</li> <li>・今年度も地域の方々による授業を実践することができた。地域の伝統・文化である『とんび風』についてゲストティーチャーをお招きして学習できることや地域の工場めぐりをしてその苦勞や希望を学ぶことは児童にとって大変貴重な体験であり、地域を愛する心の育成にもつながっていくと考えている。学校支援地域本部との連携を今後も密にして地域に親しむ心の育成に努めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、徐々にではありませんが、学校家庭地域との相互関係も上向いているように感じます。</li> <li>・スクールサポートにしろくの会長としては、この項目は4になってほしいところ。我々のアピールも足りない面もあると思うので、今後の課題にしたい。</li> <li>・これからも子どもたちを取り巻く地域としてより良く活動していきたい。</li> <li>・地域として何ができのかが検討していきたいが、それぞれのグループで個々に頑張っているのではありませんかと思いが、個々でなく、一つのグループとして活動することにより、パワーアップするのではないかと思います。仲三町会としても微力ながら協力していきたい。</li> </ul>
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 同 80%以上。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: 同 60%以上。			
		地域人材をゲストティーチャーとして招いたり、地域に出て学ぶ授業を設けるなど、地域に親しみを感じながら学ぶ機会を設定する。	1: 同 60%未満。			
		宿題や家庭学習の手引きを活用し、家庭の協力を得ながら、子供の家庭学習を充実させる。				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。